

緊迫するイスラエル情勢

2025 年 10 月 21 日

防衛大学校

江崎智絵

1. ユダヤ人の歴史とイスラエルの建国

(1) 離散（ディアスポラ）の民

- 異民族による支配
 - ・神との契約
 - ・「離散」と「集合」
 - ・「帰還」と「救済」
- ヨーロッパにおけるユダヤ人問題
 - ・宗教的理由による差別：「イエス殺しのユダヤ人」
 - ・ドイツ・ナチスによる人種差別
 - ・ホロコーストの発生

(2) 解放の契機

- 1789 年、フランス革命
 - ・「法治主義」を始めとする規範の確立
 - ・「フランス人になる」
- 近代法＞ユダヤ教の戒律
- 祖国防衛のための自己犠牲
- ユダヤ人による様々な反応
 - ・宗教的保守化 → 超正統派
 - ・ユダヤ教の改革
 - ・啓蒙主義への傾倒
 - ・改宗 → 同化
- (3) シオニズム（ユダヤ民族主義）の誕生
- テオドール・ヘルツル
 - ・同化主義者
 - ・1894 年、ドレフュス事件の発生 cf. 2025 年 6 月、ドレフュス大尉の名誉回復の動き
 - ・1896 年、小冊子『ユダヤ人国家』の出版
 - ・1897 年、第 1 回世界シオニスト会議の開催
- バーゼル綱領の採択

シオニズムは、パレスチナの地に、ユダヤ民族のための、公的な法によって保証された郷土を創設することを目的とする

2. イスラエルの世界観

(1) 自己イメージとしての「孤立」

➤ ホロコーストを頂点とする受難

- ・ 600 万人の犠牲

- ・ 唯一のジェノサイド

- ・ 浮き彫りにした孤立無援の状態

- 民族の存亡に関する自助への固執

- 他者への依存に対する忌避感

- 大国パトロンの必要性

➤ 唯一のユダヤ人国家

➤ 被包囲意識の強さ

- ・ 国防を担うマンパワーの必要性

- ・ 1950～60 年代、イスラーム世界からの新移民の受入れ

➤ 軍事的強さと友好関係の模索

⇒ 「安全保障至上主義 (security activism)」対「政治至上主義 (political activism)」

→ 前者の勝利

(2) 軍事的強さの追求

➤ 委任統治パレスチナへの移住 (アリヤー)

- ・ 労働力の「ヘブライ化」

- ・ パレスチナ人との衝突

- ・ 準軍事組織の発達

➤ イスラエル国防軍への吸収

➤ 1953 年、初代首相ベングリオン (David Ben-Gurion) による軍事・安全保障ドクトリンの策定

- ・ 3 つの柱：抑止、早期警戒、攻撃力

- ・ 土台としてのジャボティンスキー (Zeev Jabotinsky) の「鉄の壁」

- 多数派のアラブ人はイスラエルを受け入れることができない

- まずは強力な軍事力が必要

- 度重なる戦争 → イスラエルの軍事力を打破できないとアラブ諸国に学ばせ、平和な状態が既成事実化すれば対話が可能

➤ 1973 年戦争の影響

- ・ イスラエルのインテリジェンスの失敗

- ・ 1977 年、ベギン (Menahem Begin) 率いるリクード政権の発足

- ・ アラブ諸国との和平を不可能だとみなし、非アラブ諸国との連携強化

(3) 対外政策としての「周辺戦略」の成立

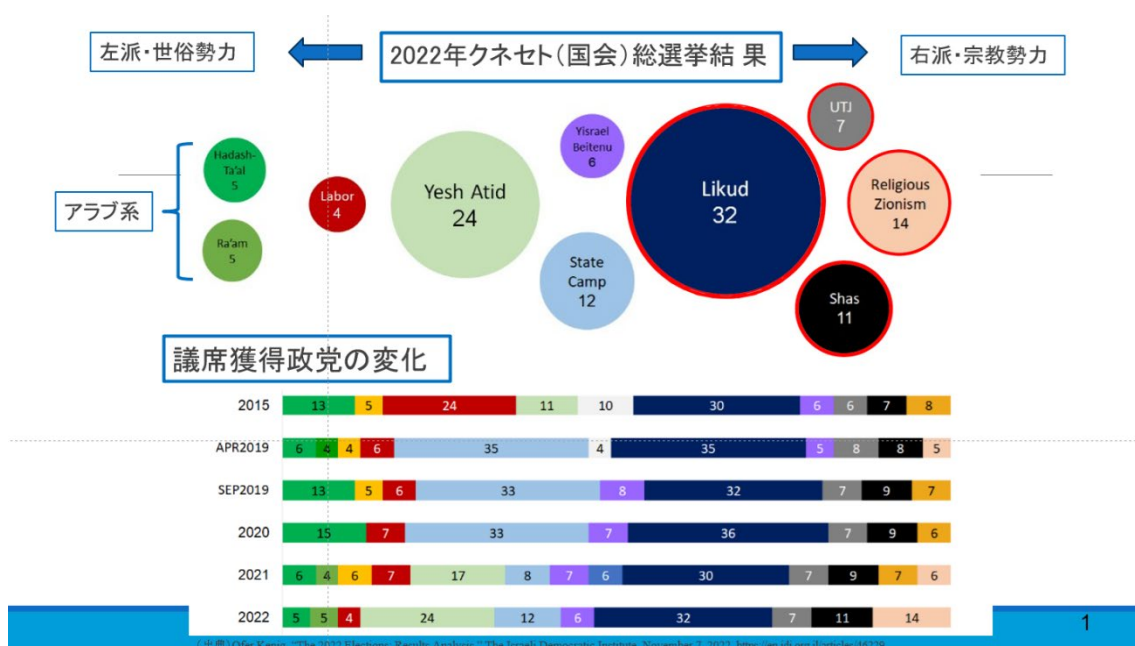
➤ 中心と周辺：脅威であるアラブ諸国 (中心) と脅威認識を共有する国々 (周辺) の存在

- イラン、トルコ、エチオピア
 - ・西側諸国の一員
 - ・共通の脅威：ソ連およびエジプト
- 「周辺戦略」に生じる綻び
 - ・1974年、エチオピアの共産化
 - ・1979年、イラン革命の発生 cf. エジプトとの和平条約の締結
 - ・2000年代以降、トルコとの関係悪化
- 「逆周辺戦略」

3. 争点としての聖俗関係

- 2022年12月、第6次ネタニヤフ内閣の発足
 - ・「イスラエル史上最も右寄り（特徴①）で、宗教的には保守（特徴②）」（2024年6月2日付NYT紙）
 - ・イスラエルの人口数（2024年1月）：約990万人（ユダヤ人：73.2%、アラブ人：21.1%）
 - ・宗教別人口とその割合（2022年）：ユダヤ教徒（73.5%）、ムスリム（18.1%）、その他（キリスト教徒：1.9%、ドルーズ：1.6%）

図1 イスラエル総選挙結果の変遷



- 特徴①：極右「宗教シオニズム」との連立
 - ・ユダヤ教の宗派：正統派（ハレディーム）、改革派、保守派
 - ・超正統派と現代正統派の違い
 - 社会参加の度合い：積極的な社会参加（兵役を含む）
 - シオニズムへの認識：イスラエル建国は神による救済の予兆

➤ 特徴②：ユダヤ歴に基づく宗教行事への参加

- ・ユダヤ人の証
- ・宗教実践の違い

図2 イスラエルにおける聖と俗の社会層

聖俗対立

- 聖と俗の意味するもの
- ピュー・リサーチ・センターの調査

正統派の内訳と人口に占める割合

	割合
①超正統派(ハレディーム)	9
②現代正統派(ダティーム)	13
③伝統派(マソルティーム)	29
④世俗派(ヒロニーム)	49

(出典) *Israel's Religiously Divided Society*, Pew Research Center, March 8, 2016, p. 6

2

➤ 徴兵制をめぐる聖俗対立

- ・国民皆兵国家：男女ともに18歳で入隊（男性32カ月、女性24カ月）
- ・ガザ戦争に伴う予備役の招集 ⇔ 超正統派に対する兵役免除
- ・高まる不平等感

- 2012年、最高裁による違憲判決：「法の下での平等」に反する

- 2018年12月、超正統派を含む徴兵制法案の提出

- 2024年6月、最高裁による違憲判決

- ・2025年7月、UTJ（7議席）とシャス（11議席）による連合「離脱」